

テスト設計コンテスト OPEN クラス - アピールシート

※全体でA4縦 1 ページに収まるように記述してください。

		地域名	愛知県
チーム ID	S270713004	チーム名(ふりがな)	AQA(あくあ)

チーム紹介

初めまして、チーム『AQA(あくあ)』です。
昨年(2025)のテスト設計コンテスト決勝戦を現地観戦し、『出てみたい…出よう!』となって参加を決めました!!
第三者評価、品質保証の技術は時代とともに進歩を続けていますが、
守るべき価値や『だからこそ、どうしていくのか』を日々考えています!

コンセプト

「分断された品質を、ひとつの保証へ」

だんだん動物園が受入判断できるシステムレベル保証(System-level Assurance)を起点に、複数ベンダの個別証拠(Evidence)をひとつの保証へつなぎました。
V03 で揺らぐサブシステムの「間」、状態の「途中」、処理が重なる「瞬間」に加え、仕様が一意に決まらない地点も推測で埋めず、「何を保証でき、何が条件付きか」まで追える設計にしました。

工夫点

①「守る価値」から、受入判断までつなぐ

業務価値 → 失敗状態 → 品質リスク(Product / Assurance Risk) → テスト要求 → カバレッジ/ケース → 証拠を接続。4つのトレース軸(Trace Axis)で、ケースから守る価値へ逆引きできるようにしました。

② “間・途中・瞬間”を、8つの分析視点で狙う

プロダクト分析 7+保証分析 1 で、状態遷移、販売 Capacity、並行・競合、異常・回復、変更影響と仕様確定性を分離。途中状態(Intermediate State)と最終収束(Convergence)まで評価します。

③ 未確定を“消さず、推測で埋めない”

CONF-01~22 で未確定地点を管理し、共通保証(Common Assurance)と条件付き Oracle を分離。特殊な故障注入・精密 Timing・内部観測は ENV-CAPABILITY 依存として、仕様未確定と実行制約を混同しません。

④ カバレッジを“閉じる”

82 因子/組合せ → 65 関係 → Product Coverage 246 を全量化し、Legacy Review 10・Retired 7 を分離。60 Formal Logical Case へ具体化し、No-Orphan 監査で上流目的・Case・Evidence を往復確認します。

⑤ 回帰を“固定本数の後工程”にしない

V03 変更 → 影響到達(Impact Reach) → 既存保証(Existing Guarantee)を AM-07 で追跡し、固定 25 件ではなく Current 60 Case から影響に応じて回帰対象を選択。変更時も「どこまで保証を見直すか」を説明可能にします。

⑥ 図説と Evidence を“再生成できる成果物”にする

設計論理と表示仕様を分離し、SSOT → 図説/台帳生成 → 自動監査・AI 支援 → 人手レビュー → SSOT へ還流(Return)する Feedback Loop を構築。見た目を直接直して意味差分を隠さない運用にしました。